



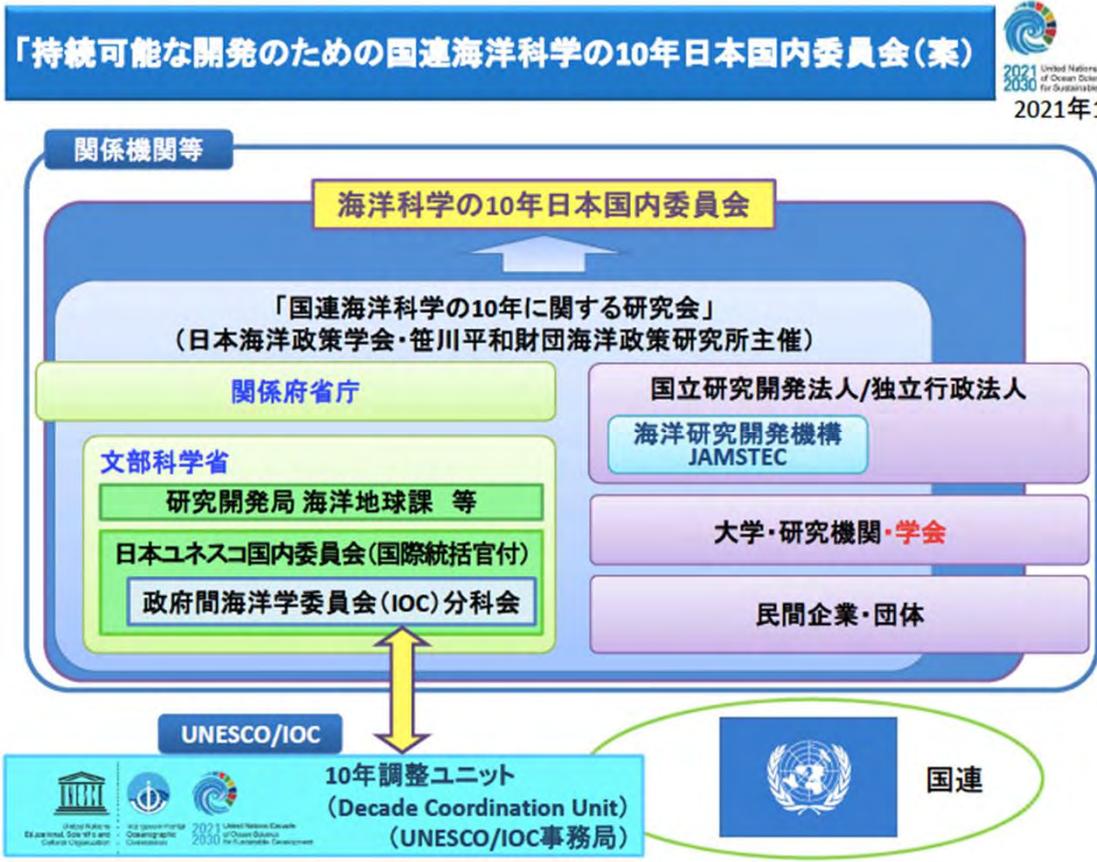
©2021年1月1日発行(毎月1回)日発行) 学術の動向 第26巻第1号 通巻第266号 ISSN 1342-5363

【特集1】
「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」を多様な視点から考える

窪川かおる・山形俊男/道田 豊/榎松光夫/安藤健太郎/
 白山義久/千葉早苗・升本順夫/石井雅男・見延庄士郎/
 原田尚美・川井浩史/古谷 研/鈴木昌弘/磯辺篤彦/大越和加/
 牧野光球・川辺みどり/角南 篤/坂元茂樹/春日文子/
 Marie-Alexandrine Sicre / Wenxi Zhu

【特集2】
ネットワーク型の国際ガバナンスの展望と課題

古城佳子/鈴木基史/根本洋一/山田高敬/龜山康子/鹿摩佳代



- 私たちの望む海**
- きれいな海
 - 健全で回復力のある海
 - 生産的な海
 - 予測できる海
 - 安全な海
 - 万人に開かれた海
 - 夢のある魅力的な海



10の挑戦課題を設定
 植松は国連海洋科学の10年行動計画グループ委員19名の1人

Ocean/KANへの日本からの参加にどのような利点があるか？

現状はSCOR分科会が海洋科学の立場から支援

学術会議のFEとして貢献すべきことは、学会関係の研究者だけでなく、地方自治体も含めた政策決定者、民間企業、NPO、市民がグローバルに考え、ローカルに行動することで、大型国際共同研究プロジェクトの立案や、日本の知見を生かした取り組みが期待されている。（北海道、沖縄県、静岡県など）

Ocean/KAN のDevelopment Team（植松は、co-chair）と IPOの設置に向けて

The French proposal, led by CNRS（フランス国立科学研究センター）, was the only one remaining in the end, as South Africa – one of our two finalists.

フランスに偏るが、計画も素晴らしく、予算も潤沢であり、マクロン大統領の海洋への支援が多大である。今春から稼働予定。